こんなお店に行ってみたい

山奥の隠れ家的なギャラリーで、心の栄養補給

Chez Keiko シェイ ケイコ

鹿沼市の古峰神社に向かう途中、細い山道を入った行き止まりにシェイ ケイコはありました。こんな山奥で人気もないギャラリーに人が来るのかと思いきや、一年に十回ほど催される個展は人気でリピーターも数多く訪れます。人気の秘密はオーナーの人柄と、リラックスした雰囲気にありました。住宅の一部を開放したあたたかな空間でお茶を飲みながらゆっくりと鑑賞していると、目の保養になるだけでなく、心までゆったりとほどけていくようです。

オーナーの阿部啓子さん

まるで山の別荘に来たかのよう

シェイ ケイコ
鹿沼市引田 1598-2
（阿部啓子宅）
TEL 0289-65-8785

住宅の一部を開放する

ギャラリー「シェイ ケイコ」を目指して行くと、こんなところにギャラリーがあるのかと疑ってしまうほど、道は狭く、対向車もない山道を入っていきます。たとえ、ギャラリーがあったとしても、人が集まるのかといぶかりたくなりますが、意外や意外、このギャラリーは都心部からも人が集まるほど人気なのです。

山道の行き止まりに建つ大きな住宅は、まわりを山に囲まれた野趣あふれる風景。近くを流れる川の音が聞こえ、まるで別荘に来たようです。住宅の玄関を入ると、素敵な陶器やランプが飾ってあり、目を引きます。廊下の奥は天井の高いリビング。オーナーの好きなキリムがアクセントになってシックな雰囲気です。ここで、一年に十回ほどの個展が催されるのですが、個展のたびに家具のレイアウトは変えられ、オーナーがコレクションしているキリムによって別の表情の空間が生まれるようです。

オーナーの阿部啓子さんは六年前まで、鹿沼市内でレストランを営んでいました。そこを閉める際、自宅でギャラリーをすることを思いついたそうです。以前に夫が陶芸をやっていたこともあり、アーティストの仲間や知り合いが多く、さまざまな分野への興味や造詣が深かったこともあります。阿部さんは作家と、一般の方をつなぐ橋渡しをしたいと考えたのでした。

そこで自宅のリビングを開放し、個展を開くことにしました。最初はレストランのお客さん百人ほどに案内を出したそうですが、今や千人に出すといいますから、いかにこのギャラリーに人が集まるのかわかります。

ついリラックスしてしまう落ち着いた雰囲気のリビング

友達の家に招かれたような感覚

このギャラリーに来た方は長居することが多いそうですが、訪れるとその意味がわかりました。オーナーの阿部さんがもてなし上手なのです。地下水で作ったコーヒーとお菓子をさりげなく出されると、ついリラックスして会話も弾みます。知らない人同士も、このなごやかな雰囲気のなかで一緒に鑑賞しているうちに心がほどけていくことでしょう。作家の方々もデパートで個展を催すときとは違って、くつろいだ雰囲気でお客さんと会話ができるといいます。お客さんの中には菓子折りを持ってきてくれる方も多いそうで、まるで友人の家を訪れるかのような気持ちなのかもしれません。

ふだん足を踏み入れるギャラリーがいかにお客や作家を緊張させるものなのか、わかったような気がしました。そしてギャラリーとは本来こんなふうにあるべきで、みる者の心の栄養になる場所であってほしいと思いました。

好きなものに囲まれて生活する豊かさを、阿部さんはこのリビングに作品を展示することで、人に伝えています。芸術品を箱の中にしまっておくのではなく、生活の中に取り入れる方法をこの場所で表現しているのです。

好きであることが成功の秘訣

「このギャラリーをやってみたら私の天職だと思いました」という阿部さんは、毎日が本当に楽しいといいます。

「人が好きなんですね。知らない人が来てお話するのも楽しいし、疲れることがないんです。無理をしないでいられることが楽しいですよね。」

また、個展を開くにあたってはまず、自分が惚れ込んだものでなければいけないといいます。人に自信をもってすすめることができるものでなければならないし、自分が好きでなければその素晴らしさや楽しさを伝えることもできません。

たとえば阿部さんは年に一回の「ペルシャ絨毯・キリム展」をおこなっているそうですが、阿部さん自身がキリムに惚れ込んでコレクションしているそうです。「キリムは踏めば踏むほどよくなるんですよ」といいますが、使うことによってさらに味わい深く、生活を豊かにしていくものなのだそうです。

阿部さんのお話を聞いていると、知らない世界であっても興味がわき、つい個展を覗きたくなってしまいます。

シェイ ケイコの魅力はそのままオーナーの人柄とセンスによるものなのでしょう。人が人を呼び、楽しい会話の生まれる場所、そんな理想的なギャラリーに足をのばしてみては。